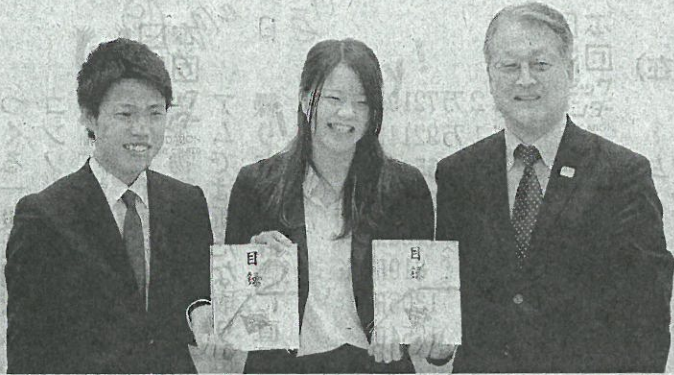


キャンパる

ホームページ <http://my-campal.com/top/>
メール campal@mainichi.co.jp

パラスポーツの記事で1位を受賞した早稲田大学生記者(左2人)と日本盲人マラソン協会事務局長



なん...
コレ!?

大学新聞部が広報活動

パラリンピックに学生の力

2020年の東京パラリンピックに向け、パラスポーツ(障害者スポーツ)への関心が高まっている。しかし、人手不足から広報活動に苦戦する競技団体は多い。そんな状況を打破すべく、日本財団パラリンピックサポートセンター(パラサポ、東京都港区)は、大学スポーツ新聞部の学生記者を広報インタビュ生として競技団体に派遣するプロジェクトを行っている。

この「パラリンピック競技広報支援プロジェクト」では、学生記者は派遣団体の試合や合宿、選手について広報記事を書く。

「記事は各団体、大学新聞部のウェブサイトで公開され、パラサポのフェイスブックで拡散される。学生記者を派遣する理由として、パラサポ推進戦略部の前田有香さん(30)は「広報は団体の内に入り、外部にどう見せるかが重要。学生目線だと若い世代にアピールできる」と語る。

先月15日には、フェイスブック上の「いいね」の数に基づく表彰式があり、早稲田スポーツ新聞部による盲人マラソンランナー道下美里選手の記事が1位を獲得した。道下選手は昨年のリオパラリンピックに出場。記事には大会への意気込みが

「早稲田スポーツ新聞部の平野紘輝さん(21)は4年間は「記事が評価されたのはうれしいが、だから」と感じて競技の知名度が一気に上がるわけではない」と気を引き締める。「本気でスポーツをしている人に、健常者と障害者の区別はない」と感じ

「一橋大・川平朋花、写中。微力ながら、競技や選手の魅力を発信していきたい。」

記者も大学の新聞部でこのインタビューに参加

2017.4.7 (金)
毎日 974 8面